

(開始 午前11時07分)

議長 (勝山 正)

8番 山崎栄喜 議員。

(「はい、議長。8番。」の声あり)

(8番 山崎栄喜 議員 登壇)

1. 馬曲温泉の運営について

8番 山崎栄喜 議員

発言を許されましたので、通告に基づき2項目について質問します。

最初に、馬曲温泉の運営について質問します。

馬曲温泉公園がオープンしたのが昭和63年。まもなく35年を迎えます。日本経済新聞が「雪景色が素晴らしい温泉」東日本一位に選定したことがある馬曲温泉は、村民の保養と、憩い、交流の場としてはもちろん、多くの観光客にも愛されてきました。そして、馬曲温泉はスキー場と共に、本村の重要な観光施設であり、宝と言えます。スキー場は冬期間が中心であるのに対し、馬曲温泉は春の新緑から始まり、天空の夏、秋の紅葉、冬の雪景色と、四季折々の景色は素晴らしいものがあり、本村では年間を通じて多くの人を呼び込むことができる数少ない観光施設であります。

馬曲温泉は、公共施設維持管理計画による民営化方針に基づき、昨年11月に譲渡先の公募プロポーザルを実施いたしましたが、運営事業者が見つからず、この4月1日から休業をしています。

そして、馬曲温泉は、湯量の減少、施設設備の老朽化、内湯と外湯が繋がっていないなどの施設面の課題のほか、電気料、燃料代の高騰などで維持管理費が多額にかかる一方、利用者数は年々減少しているなど、課題が多くあります。

5月26日に開催された議会全員協議会で、今後の馬曲温泉再開に向けての説明がありました。

その内容は、今までの譲渡の方針から20年間の長期貸付に変更して、公募プロポーザルにより運営事業者を選定し、運営の再開は来年4月以降になるとのことです。多くの村民からどうなっているのか、いつ再開するのかという声が寄せられ、休業を残念がり、早期の再開を望む観光客が多いといえます。

そこで、次の点について村長に伺います。

1点目。今回のプロポーザル概要では、新源泉について湧出量が毎分100リットルを切る状況になった際、協議するとあります。一方、施設の修繕及び改修については、事業者負担で実施するとあります。整合性が取れないのではないのでしょうか。新源泉の掘削は村が行うのか、運営事業者が行うのか。また、掘削を村が行う場合には、その費用と財源は何か、お聞きしたいと思います。

2点目。中野市の温泉施設は、無償譲渡されました。今回のプロポーザル概要では、1点目で述べましたように、施設の修繕及び改修については事業者負担で実施するとあり、土地は3年間無償とし、4年目から20年目まで年140万4千円、総額2,386万8千円を、運営事業者が村に支払うことになっています。この条件で運営事業者が決まる見込みがあるのか。また不調に終わり、ただ時間を浪費することにならないか心配をいたします。

3点目。運営事業者が決まるまでの間、暫定的に村もしくは、現在、維持管理を行っている馬曲温泉株式会社などで温泉だけでも営業することができないか。

4点目。厳しい村の財政状況に鑑み、運営経費の一部を捻出するために、馬曲温泉愛好者や村の応援者等にクラウドファンディングの実施や、ふるさと納税の返礼品に入湯券を加えて、資金を調達してはどうか。

以上、4点について質問いたします。

議長 (勝山 正)

日暮村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

馬曲温泉についてのご質問であります、このご質問については、昨日、山浦議員にもお答えした内容と重複する部分があります。具体的なお質問について産業課長に答弁させます。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方からお答えをいたします。

今回お示しをしました公募プロポーザルの概要案であります、考え方については山浦議員にもお答えしておりますが、第1回の公募から民間事業者の調査、意見聴取の中で判断した内容であります。あくまでも民間事業者による事業が継続できるよう、リスクを軽減した内容を前提としました。

温泉の重要な設備である源泉関連については、老朽化による故障のリスクが高いことから、村の負担を想定しました。

また、営業的手法により変わる要素が強い建物などは、事業者によって活用方法や改修に対する考え方が大きく変わることから、その改修についての初期投資の負担を軽減した内容として、3年間の改修補助金を想定いたしました。

また、新源泉の掘削経費ですが、あくまでも土地も施設も貸付を想定しており、村の所有としていますので、村負担となることを想定しています。ただ、現時点で具体的にどういった対応にしていけるかは、今後の運営状況を考慮しながら、できるだけ村の負担とならないよう検討していきたいと考えています。

2点目の運営事業者の選定の見込みがあるのかというご質問でございます。

今までもご説明してきた内容で、できるだけ民間事業者の参入リスクを軽減するため、初期投資分と大きな将来投資リスクを軽減することを前提といたしました。

村の主要な観光施設として捉えるのであれば、ある程度温泉施設として継続していただけるよう村としてもリスクを背負っていく必要があると考えます。ご指摘のとおり、時間がかかることも想定をされますが、できるだけ施設の継続性を確保しながら検討していく必要があると考えていますので、ご理解をお願いします。

3点目のご質問については、山浦議員への答弁のとおり、今のところ予定はございません。

4点目のご提案についてであります。

クラウドファンディングという資金調達の仕組みも全国で取り組まれていることは承知しておりますが、運営経費としてお願いしていくのは難しいと考えておりますので、ふるさと納税において寄附をいただけるような形で検討していくのが現実的かと考えておりますので、参考にさせていただきたいと思っております。

議長（勝山 正）

山崎栄喜 議員。

再質問

8番 山崎栄喜 議員

再質問させていただきます。

1点目。最初の質問で整合性についての答弁がありませんでしたが、これから作るであろうプロポ

一ザルの実施要項、そこには明確に表現した方が良いのではないかと私は思います。

村の実施計画では、2年後の令和7年度に新源泉の掘削が予定されていますが、財源については明記されておりません。ただ今の答弁でも、明確な答弁がありませんでしたが、議員の立場としてはチェック・審査する必要があります。大事なことでありますので、ぜひお答えいただければと思います。

また、併せて、有利な起債や補助金がなかった場合に、全額村費でも掘削を行うのか、お聞きしたいと思います。

2点目、馬曲温泉は当面営業しない、やまびこの丘公園のダリア園も今年はやらないと聞いております。本村を訪れた人をどこに連れていけばいいのか。連れて行けるところは稲泉寺の蓮くらいしかないのではないかと思います。そんな状況の中で、寂しさを覚えるのは私だけでしょうか。閉塞感に拍車をかけていると思います。

お湯は現在も出続けているわけであります。やる気になれば、温泉の再開はできるのではないのでしょうか。休業という楽な選択をしないで、村民や観光客に寄り添い、少しぐらい村の負担が生じても暫定的な話でありますので、温泉だけでも早期に再開するべきだと私は思います。再考を求めたいと思います。

以上、2点について質問します。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

それでは、最後にご質問いただいた営業の再開ということですが、これについては、これまでの経営の状況等を見ますと、やはり人件費だとか、それからまた、ポンプの電気料、加温に係る光熱水費と、かなり村とすれば費用負担が出てくるだろうと思います。

今、山崎議員、そしてまた、昨日は山浦委員からもそういうご意見ありました。そういうことを前提ということであれば、それも一つの方法かと思いますが、それについてどれぐらいの村負担になるのか、その辺をこれからしっかり出して、その上でまた検討していきたいと考えております。

他の質問については、担当課長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方から2点お答えをいたします。

まず、源泉掘削の財源でございます。現段階では運営者が決まっていないということ等もありまして、具体的にはどういった財源で進めていくかというのは、今、検討中でございますので、今の段階ではどんな財源ということはお答えできません。

一つ目の整合性のお話でございます。公募プロポーザルしていく段階で、そういった新源泉の財源負担も触れた方が良くというお話でございます。

これについては、今どういう表現にしていくかという検討していきますので、具体的には、公募要項の中には示していきたいと考えております。

現時点では全額村費でっていうのはやっぱりちょっと難しいだろうと考えておりますので、今、議員おっしゃられたように、起債ですとか補助金ですとか、そういったものも想定しながら進めていきたいと思っております。

再々質問

8番 山崎栄喜 議員

再々質問させていただきます。

新源泉の湧出量が毎分 100 リットルを切る状況になった際、協議することになっているわけですが、表現が曖昧ではないでしょうか。

プロポーザルの要綱決定が6月下旬頃ということではありますが、それまでに財源が決まるのか。決まらない場合には、運営事業者との後々のトラブルになる、そういうふうな発展する可能性があるのではないかと心配をしているわけでもあります。その辺について伺いたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

はい。再々質問にお答えをいたします。

山崎議員おっしゃるとおりで、こちらも想定をしております。ただ、100 リットルがその運営事業者にとって必要な量なのか、また、全然足りない量なのかというところもちょっとわからない部分もございますので、そういった表記については、早急に検討しているところでございますので、ご理解をお願いいたします。

議長（勝山 正）

暫時休憩します。

再開は、午後1時でお願いします。

(休憩 午前11時54分)

(再開 午後1時00分)

議長（勝山 正）

休憩前に引き続き会議を開きます。

山崎栄喜 議員。

2. 村民との対話集会の開催について

8番 山崎栄喜 議員

それでは2番目の質問、村民との対話集会の開催について質問します。

長野県は、知事が県内全ての市町村を訪問して語り合う「知事との県民対話集会」を開催していて、この6月10日には木島平村に知事が訪れ、「少子化対策・移住定住対策について」をテーマとして、村民との対話を行う予定でいます。「対話と共創」この共創は、共に創造の創、つくるという字であります。対話と共創を図る、開かれた県政の取組であり、大変意義深いものと考えます。

本村では、毎年地区づくり懇談会を開催してきましたが、年々開催する区も減少してきている状況にあります。そこに新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、過去3年間は全く開催されてきませんでした。村民が村に意見や要望を伝えたいと思っても、なかなかその機会がありません。

本村は、今、人口減少対策、子育て支援対策、道の駅ファームス木島平、馬曲温泉、有機センターなどのあり方など課題が山積しており、村の将来を方向づける大変大事な時期にあると思います。

広報広聴は、村にとって大変大事な業務であり、責務であると考えます。

そこで、本村でもテーマを絞り、村民と直接対話する機会を設けたらどうか、答弁をお願いします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

それでは、村民との対話集会ということですが、各地区において開催されております地区づくり懇談会は、ご指摘のとおり年々減少傾向となっております。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和2年度、3年度は開催されず、令和4年度は1地区のみの開催となりました。日常生活が戻ってきている中、本年度の村づくり懇談会は、2地区で今後開催予定となっております。

村では、第7次総合振興計画の策定にあたり、現在、各団体の皆様にテーマに沿ったヒアリングをお願いしており、私も参加させていただき、ご意見やご提案を伺っております。

現時点、ご提案の村民の皆様との対話集会は計画しておりませんが、団体の皆様のヒアリングを進める中で、必要と判断した場合は実施してまいりたいと考えております。

これまでの経過やヒアリングの状況等について、総務課長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

（総務課長「丸山寛人」登壇）

総務課長（丸山寛人）

それでは、村長の答弁に補足してこれまでの経過等について、ご説明いたします。

村では、平成27年度から令和6年度までを計画期間とする第6次総合振興計画の効果検証と、令和7年度を最初とする第7次総合振興計画の策定に向けて作業を進めています。

昨年度は、アンケート調査を実施し、今年度は、団体ごとにテーマを設定し、理事者出席の上ヒアリング等をさせていただいております。団体メンバーの皆様一人一人から、日ごろ感じている課題や将来に向けたご意見やご提案を頂いており、頂いたご意見は、現行計画の検証や次期計画に反映するための基礎資料として、幅広く活用させていただく予定でございます。

現在までに、民生児童委員協議会や農業委員会、教育委員の皆様のご意見やご提案をお聞きしておりますが、今後さらに、区長様はじめ、社会教育や防災など関係者の皆様へもヒアリングをお願いし、ご意見やご提案を伺う予定でございます。

議長（勝山 正）

山崎栄喜 議員。

再質問

8番 山崎栄喜 議員

各団体から、ヒアリングを行っているということでございますが、そういう当事者の意見は、当然必要と思いますが、一般の村民の意見がどのぐらい反映されるかと、その意見が各団体から吸い上げられてきてればよろしいわけですが、なかなかそれは、現実的には不可能だと私は考えます。

それでは、具体的に話をいたしますと、ファームス木島平、馬曲温泉、これについてはどこの団体とヒアリングを行う予定なのかお聞きしたいと思います。

議長（勝山 正）

丸山総務課長。

(総務課長「丸山寛人」登壇)

総務課長（丸山寛人）

それでは、再質問についてお答えします。

今いただきました再質問でございますが、いわゆる個別の施設への意見等の聴取でございます。

これについては、各団体の中でもいわゆる絞ったテーマはございますが、その他全体に関するご意見もいただいております。しかしながら、現時点、ファームスといったような個々の施設への意見はいただいてない状況です。

今いただきましたご意見を参考に、今後どういう聴取の仕方があるか、担当課と調整しながら確認していきたいと思っております。

議長（勝山 正）

以上で、山崎栄喜 議員の質問を終わりにします。

(終了 午後1時07分)